

第六次総合計画 施策評価シート(令和元年度)

2-⑪

施策

魅力的で、風格ある景観の形成を推進する

担当部局

建設局, 教育委員会



【快 適】 めざまちの姿 美観地区などの歴史的な景観が保全されるとともに、まち全体としても魅力的な景観を有している

市の基本方針

- 本市の良好な景観の形成にあたっては、地形的条件や地域性など、景観を構成するさまざまな要素から「自然的景観」、「歴史・文化的景観」、「市街地景観」などに区分した類型別の方針や、地形や土地利用のまとまり、景観資源の特徴等、地域の成り立ちの経緯を踏まえ、それぞれの特性を生かした地域別の方針に基づいた取組を推進します。
- これまで本市が培ってきた独自の景観保全の取組が、より実効性のあるものとなるよう、強化するとともにその充実を図ります。
- 景観づくりに関する市民や事業者の意識向上や景観づくりへの参加意識の醸成を図るとともに、市民団体の育成やその活動を支援します。
- 歴史ある町並みを保存するため、伝統的建造物群保存地区などの建物の保存や修理などへの支援を続けるとともに、町全体ににぎわいを取り戻すよう空家の活用を図ります。

数値目標

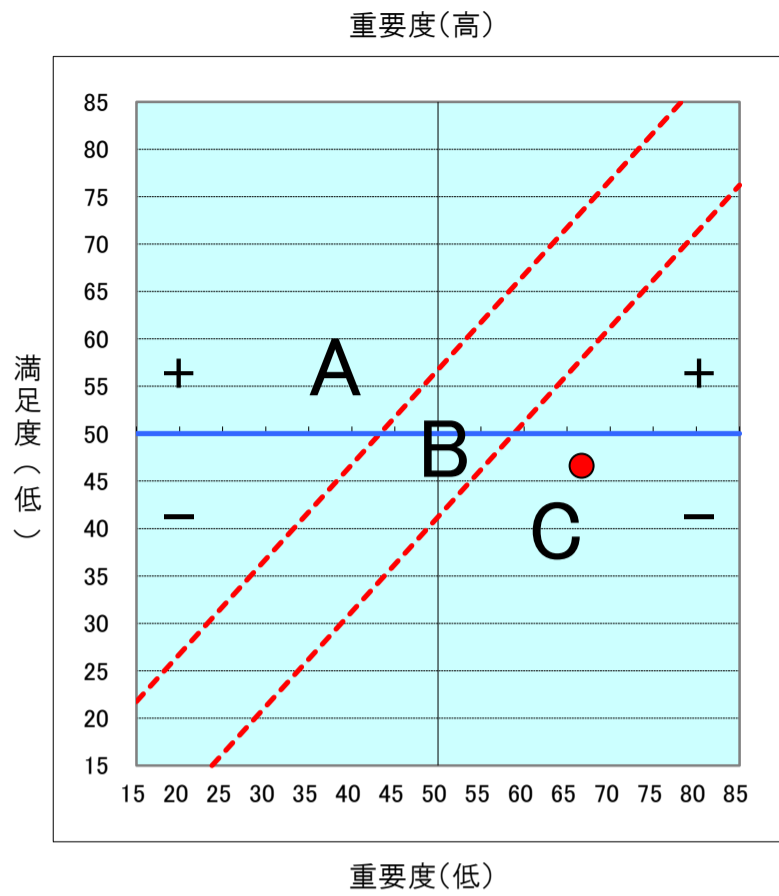
まちづくり指標	目指す方向性	算出方法																																				
倉敷の景観で改善した方がよいところがあると思っている人の割合	↑	市民アンケート調査で「市内の景観で改善した方がよいところがあると思いますか。」という設問に対して、『思う』と回答した人の割合。 ※H21(基準値)の設問は「倉敷の景観で改善した方がよいところがあると思いますか。」																																				
<table border="1"> <caption>倉敷の景観で改善した方がよいところがあると思っている人の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値 (%)</th> <th>目標値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H21</td><td>34.6</td><td>34.6</td></tr> <tr><td>H23</td><td>23.9</td><td>31.0</td></tr> <tr><td>H24</td><td>26.3</td><td>30.0</td></tr> <tr><td>H25</td><td>26.1</td><td>29.0</td></tr> <tr><td>H26</td><td>51.8</td><td>28.0</td></tr> <tr><td>H27</td><td>22.2</td><td>27.0</td></tr> <tr><td>H28</td><td>20.1</td><td>26.0</td></tr> <tr><td>H29</td><td>21.8</td><td>25.0</td></tr> <tr><td>H30</td><td>26.9</td><td>24.0</td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td>23.0</td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td>21.0</td></tr> </tbody> </table>			年度	実績値 (%)	目標値 (%)	H21	34.6	34.6	H23	23.9	31.0	H24	26.3	30.0	H25	26.1	29.0	H26	51.8	28.0	H27	22.2	27.0	H28	20.1	26.0	H29	21.8	25.0	H30	26.9	24.0	R1		23.0	R2		21.0
年度	実績値 (%)	目標値 (%)																																				
H21	34.6	34.6																																				
H23	23.9	31.0																																				
H24	26.3	30.0																																				
H25	26.1	29.0																																				
H26	51.8	28.0																																				
H27	22.2	27.0																																				
H28	20.1	26.0																																				
H29	21.8	25.0																																				
H30	26.9	24.0																																				
R1		23.0																																				
R2		21.0																																				
<p>動向(Ⅰ)／内訳(Ⅱ)／分析(Ⅲ)</p> <p>(Ⅰ) 実績値は、基準年に比べ、7.7ポイント下がり、前年度に比べ、5.1ポイント上がった。 【「まちづくり指標」アンケート調査結果報告書P56】</p> <p>(Ⅱ) 『思う』の回答が減少している世代は、16～19歳(△10ポイント)と50歳代(△7.7ポイント)だが、その他の世代で増加している。</p> <p>(Ⅲ) 全ての地域で『思う』と回答した人が増加しており、景観への関心や問題意識が高まっている結果と思われる。</p>																																						

まちづくり指標	目指す方向性	算出方法																																				
歴史的な景観が保全されていると感じている人の割合	↑	市民アンケート調査で「市内では、歴史的な景観が保全されていると感じていますか。」という設問に対して、『感じている』と回答した人の割合。																																				
<table border="1"> <caption>歴史的な景観が保全されていると感じている人の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値 (%)</th> <th>目標値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H21</td><td>45.8</td><td>45.8</td></tr> <tr><td>H23</td><td>49.4</td><td>48.0</td></tr> <tr><td>H24</td><td>44.4</td><td>47.0</td></tr> <tr><td>H25</td><td>48.2</td><td>46.0</td></tr> <tr><td>H26</td><td>43.5</td><td>45.0</td></tr> <tr><td>H27</td><td>48.3</td><td>54.0</td></tr> <tr><td>H28</td><td>48.3</td><td>53.0</td></tr> <tr><td>H29</td><td>46.8</td><td>52.0</td></tr> <tr><td>H30</td><td>51.0</td><td>51.0</td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td>50.0</td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td>65.0</td></tr> </tbody> </table>			年度	実績値 (%)	目標値 (%)	H21	45.8	45.8	H23	49.4	48.0	H24	44.4	47.0	H25	48.2	46.0	H26	43.5	45.0	H27	48.3	54.0	H28	48.3	53.0	H29	46.8	52.0	H30	51.0	51.0	R1		50.0	R2		65.0
年度	実績値 (%)	目標値 (%)																																				
H21	45.8	45.8																																				
H23	49.4	48.0																																				
H24	44.4	47.0																																				
H25	48.2	46.0																																				
H26	43.5	45.0																																				
H27	48.3	54.0																																				
H28	48.3	53.0																																				
H29	46.8	52.0																																				
H30	51.0	51.0																																				
R1		50.0																																				
R2		65.0																																				
<p>動向(Ⅰ)／内訳(Ⅱ)／分析(Ⅲ)</p> <p>(Ⅰ) 実績値は、基準年に比べ、5.2ポイント上がり、前年度に比べ、4.2ポイント上がった。 【「まちづくり指標」アンケート調査結果報告書P57】</p> <p>(Ⅱ) 平成21年度(基準値)以降、指標値はほぼ横ばいで推移しており、平成30年度の目標値を下回っている。保存地区のある倉敷・児島・玉島地域の実績値について、「感じている」と回答した人の割合が児島・玉島の各地域に比べ倉敷地域は高い。</p> <p>(Ⅲ) 児島・玉島地域と倉敷地域の地域差については、倉敷地域の保存地区の修理件数が児島・玉島地域に比べて多いことが影響しているのではないと思われる。</p>																																						

施策を推進する主な事業の評価

区分	事業名	目的(Ⅰ)／平成30年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	H30年度 決算額 (千円)
重創	景観形成事業	(Ⅰ) 事業確定前の早い段階で指導し、実効性の高い景観誘導を行うことを目的に実施した。 (Ⅱ) 条例で定める事前協議制度を積極的に求めた結果、建築物に係る届出27件すべてにおいて事前協議が行われた。 (Ⅲ) 継続して実施する。	1,731
	旧街道景観整備事業	(Ⅰ) 歴史的な町並み景観の保存のため、建物の修理、修景が、景観に配慮されることを目的として実施した。 (Ⅱ) 伝統美観保存地区の町並みを保存するため、伝統的な様式で行われる2件の建築物外観の修景に対し補助金を交付した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	2,252
重公創	美観地区電線類地中化事業(再掲)	(Ⅰ) 伝統的な建造物と調和した街並みの景観美を向上させ、更なるにぎわいを創出し、当該エリアの将来にわたる魅力創出を目的として実施した。 (Ⅱ) 阿知42号線外2線の電線共同溝施工に伴う、支障物件移設を行った。 (Ⅲ) 平成30年度以降は本体管路及び引込管路埋設工事を実施する。	50,684
公創	町家・古民家で紡ぐ魅力拠点づくりと技術伝承事業(再掲)	(Ⅰ) 高梁川流域圏域内の町家・古民家の保存・再生・活用による流域をつなぐ、新たな魅力拠点の創出を図るとともに、町家・古民家の再生活用に必要な技術伝承の仕組みづくりを行うことを目的に実施した。 (Ⅱ) 平成30年度は、町家・古民家を再生・利活用することで伝統的な文化を継承しつつ倉敷らしい未来の「町並みとまちづくり」を考える場として「倉敷市伝統美観保存条例50周年記念まちづくりシンポジウム」を実施した。また、備中各地区で独自ブランド化している「薄荷」を通じた情報・流通の共有、連携に向けた取り組みとして、「備中薄荷物語2019」を総社市内・倉敷市内2か所で同時開催し、他地区とのネットワーク構築を目指すとともに、町家・古民家の活用事例として周辺古民家所有者に提示することで、既存ストック再生活用の効果及び成果を示し、良質な後継事業者の誘発やエリア全域の活力創出を図った。さらに、町家・古民家家屋のうち伝統工法により再生された複数の古民家を対象として伝統技術や工法についての実地研修等を開催し、町家・古民家再生のモデルとなる技術伝承スキームの構築及び伝統工法後継者の育成を図った。 (Ⅲ) 町家・古民家を再生・活用するために解決すべき課題について、これまでの調査結果や、シンポジウムでの議論等を踏まえて整理しつつ、技術伝承ワークショップの開催や、リノベーションマニュアルの策定を進め、さらなる事業推進を図る。	5,802
公創	伝統的建造物群保存地区・伝統美観保存地区・町並み保存地区保存事業(再掲)	(Ⅰ) 伝建地区・伝美地区及び町並み保存地区内の町並みを保存することを目的に実施した。 (Ⅱ) 伝統的建造物群保存地区の町並みを保存するため、伝統的な様式で行われる6件の建物外観の修理、修景に対し補助金を交付した。伝統美観保存地区の町並みを保存するため、伝統的な様式で行われる2件の建物外観の修理、修景に対し補助金を交付した。下津井町並み保存地区の町並みを保存するため、伝統的な様式で行われる1件の建物外観の修理、修景に対し補助金を交付した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	39,900
創	まちづくり基金事業(再掲)	(Ⅰ) 「地域の歴史と文化を継承する貴重な街並みを守るとともに、地域の魅力向上、賑わい創出等のまちづくり活動を支援する」ため、平成25年度に倉敷市まちづくり基金を創設した。 (Ⅱ) 平成30年度は、事業審査会を3回開催し、倉敷、水島、児島地区合わせて16件を採択した。また、基金活用実績として、町並み保全・創出支援では、倉敷美観地区及び周辺エリアで9件の町家・古民家再生整備支援を行い、修景修理に加え、空き店舗活用による賑わいと活力の創出を実現した。 (Ⅲ) 年3回、基金活用事業の審査会を開催し、市内全域でのまちづくり活動の支援(年10事業以上の支援を目標とする)を行う。また、制度の周知を図るため、市民に対する出前講座を積極的に開催していく。	63,257
公創	国指定重要文化財 井上家住宅保存修理事業(再掲)	(Ⅰ) 国指定重要文化財である井上家住宅の保護に努めることを目的に実施した。 (Ⅱ) 文化庁とも協議しながら復原計画を決定し、主屋・井戸蔵・三階蔵について保存修理工事を行った。 (Ⅲ) 令和4年度まで継続して実施する。	9,000
公創	指定文化財保存事業(再掲)	(Ⅰ) 指定文化財を適切に保存・活用するために必要な措置及び管理を講じ、文化財の保護に努めることを目的に実施した。 (Ⅱ) 国指定重要文化財「熊野神社本殿」「大橋家住宅屋根塀」の保存修理、「旧野崎家住宅」耐震診断等事業、及び県天然記念物「阿知の藤」再生事業にかかる費用の一部を助成した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	4,559
公創	伝統美観保存条例制定50周年記念事業(再掲)	(Ⅰ) 伝統美観保存条例制定50周年を記念し、これまでの町並み保存のあゆみを振り返るとともにこれからの町並み保存のあり方などについての検討を行うことを目的に実施した。 さらに、町家・古民家のリノベーションに焦点を当て、直面する課題、その解決策の検討を行うことを目的に実施した。 (Ⅱ) 平成31年1月26日に倉敷公民館大ホールにおいて「伝統美観保存条例制定50周年記念シンポジウム『みんなでもり育てる町家・町並み』」を開催した。当日は約230人の参加者があり、シンポジウムを通じて倉敷の町並みの魅力を再認識し、地域への愛着を一層深めることができた。 また、平成31年3月30日には、倉敷アイビースクエア別館 フローラルコートにおいて「倉敷市伝統美観保存条例制定50周年記念まちづくりシンポジウム 倉敷らしい『町並みとまちづくり』」を開催した。当日は約100人の参加者があり、町家・古民家を再生・利活用することで伝統的な文化を継承しつつ倉敷らしい未来の町並みとまちづくりを考える場となった。 (Ⅲ) 平成30年度で完了した。	1,314

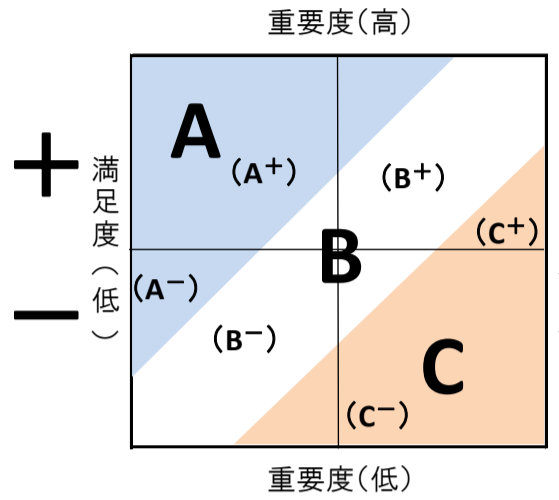
市民の重要度・満足度(R1.5アンケート調査結果)



領域	偏差値	
	重要度	満足度
C ⁻	46.59	66.72

●重要度に見合う以上の満足度が得られている(C)
●重要度が平均値より低い(-)

【グラフの見方】



A:重要度に見合った満足度が得られていない領域
 B:重要度に見合った満足度が得られている領域
 C:重要度に見合う以上の満足度が得られている領域

※ 以上の3つの領域を、さらに2つに分割(3×2領域)
 +:重要度が平均値より高い部分
 -:重要度が平均値より低い部分

A⁺, A⁻, B⁺, B⁻, C⁺, C⁻

A⁺:重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

課題

- 景観への意識の高まりを持続させながら現在の制度を見直し、地域特性を生かした景観形成の実現に向けて、新たな制度改正を検討することが必要である。
- 景観保全の重要性についてさらに地域住民に広く周知するとともに、費用負担等、建物の所有者の理解を得ることが必要である。

今後の取組み方針

- 景観に関するアンケート調査などの結果から、関心の高い地区から重点的に課題を検討し、実施可能な改善方法を摸索する。
- 先人たちの努力によって守られてきた建造物や町並みなどの歴史的文化的景観保全重要性の啓発に努めるとともに、補助制度の活用などにより地区の特性を生かした歴史的景観の維持向上に努める。
- 歴史的文化的景観保全の取組を全市的な取組へと継承し、市民・NPO・事業者とともに倉敷らしい都市景観の形成を推進する。